

# だんとうの大スギ治療5カ年計画

## 令和7年度業務

令和7年6月

木下緑園株式会社

## 1. はじめに

だんとうの大杉治療は6年目となる。大風が吹くたびに主幹のひび割れ部分が動く姿は破損するのではないかと危惧されていた。樹高の切詰めや落枝対策を行ってきたが、更なる安全対策として主幹にベルトを取り付けることにした。

## 2. 業務内容

### (1) ベルトの取付

主幹に地上高さ2m、5m、7mの3箇所ベルトを取り付けた。ベルト1本当たりの応力は3tである。

### (2) 後継樹育成

令和4年10月31日の樹高の切詰め時に、主幹地際部に当時6本のスギの子が確認された。枯損することなく生育したため、だんとうの大杉の後継樹として諏訪神社境内に移植を行った。

## 3. 作業の様子

### (1) ベルトの取付



## (2) 後継樹育成



### 4. 考察

空洞樹木についての野外研究から、幹半径の 65～70%以上が空洞または腐朽してしまった場合のみ、破壊が生じることが分かっている。当該樹木は令和元年の調査で、64.75%で破壊が生じてもおかしくない状況であったため、樹高の切詰めや、落枝対策を優先的にこなってきた。さらに安全対策として今回、主幹にベルトを取り付けたが、効果のほどについては不明である。

令和2年10月に行った土壌改良による効果かは不明だが、大杉の周りに稚樹が出現したことは、周辺に杉がないことなどから、この大杉の子であると推測できる。

大きいもので 50 cmほどに生長したため、その内の2本を諏訪神社境内に移植し後継樹として育成していき、その他の稚樹はそのままの状態で大杉の周りで育成していく予定である。杉の実生の場合、発芽はするがほとんどの場合は枯死するとされているが、掘り取り時に実生か不定芽かは不明であった。

### 5. 今後の予定

踏圧防止のロープ柵設置、マルチングを行う予定である。

### 6. 最後に

令和8年度のロープ柵設置、マルチングをもってこの計画も終了となるが、数年おきに土壌改良は継続し樹勢の維持に努めてもらいたい。また、ケーブリング、ベルトについても恒久的なものではないため、劣化が確認されたら取り替えが必要となることも留意したい。

# だんとうの大杉治療 6年目（2025年）

木下緑園株式会社  
樹木医 大橋 忠弘

## 今回お話する内容

- 1 作業の説明
- 2 後継樹
- 3 今後の予定
- 4 その他

## 1 作業の説明

### はじめに

だんとうの大杉治療は6年目となる。大風が吹くたびに主幹のひび割れ部分が動く姿は破損するのではないかと危惧されていた。樹高の切詰めや落枝対策を行ってきたが、更なる安全対策として主幹にベルトを取り付けることにした。

### 業務内容

#### ベルトの取付

主幹に地上高さ2m、5m、7mの3箇所にもベルトを取り付けた。ベルト1本当りの応力は3 tである。

## 材料確認 ラッシングベルト

ラッシングベルトとは、荷物を固定するためのベルト状の荷締め機のことです。トラックや貨物列車、船舶など輸送中の荷崩れ防止に広く利用されています。今回は幹を締め付けることを目的として採用しました。

樹木医の世界では、樹木治療などの現場で使用する資機材のほとんどが、樹木に特化したものではない。

エアースコップ、大杉の空洞率を診断した、ドクターウッズ



## 作業の様子



## 2 後継樹

### 後継樹育成

令和4年10月31日の樹高の切詰め時に、主幹地際部に当時6本のスギの子が確認された。枯損することなく生育したため、だんとうの大杉の後継樹として諏訪神社境内に移植を行った。



枯損原因 今年の夏は暑かった。

6月に移植を行った直後から暑く乾燥状態が続き、7月の降水量は1mmにとどまった。気温も高く推移し、7月の平均気温は28.6度と過去最高、最高気温が30度を下回ったのは1日だけで、35度以上の猛暑日もこれまでに最も多く7日あった。

落葉広葉樹であれば、自ら一部を落葉させ、水ストレスに耐えるが、スギの場合、落葉することができないため枯損したようである。

### 対策

移植時期を秋（9月下旬～10月）に行い、発根を多くさせて冬を越させる。春の芽吹き頃から根の量を増やすことで、夏の高温に耐えられる根量にする。

先人の言い伝えで、冬越しした樹木は夏越できる。夏越しした樹木は冬越えできる。

### 考察

空洞樹木についての野外研究から、幹半径の65～70%以上が空洞または腐朽してしまった場合のみ、破壊が生じることが分かっている。当該樹木は令和元年の調査で、64.75%で破壊が生じてもおかしくない状況であったため、樹高の切詰めや、落枝対策を優先的にこなってきた。さらに安全対策として今回、主幹にベルトを取り付けたが、効果のほどについては不明である。

令和2年10月に行った土壌改良によるものかは不明だが、大杉の周りに稚樹が出現したことは、周辺に杉がないことなどから、この大杉の子であると推測できる。

大きいもので50cmほどに生長したため、その内の2本を諏訪神社境内に移植し後継樹として育成していき、その他の稚樹はそのままの状態で大杉の周りで育成していく予定である。杉の実生の場合、発芽はするがほとんどの場合は枯死するとされているが、生長していることは土壌改良の効果かもしれない。

### 3 今後の予定（令和8年）

年	内容	形態
令和7年(2025)	幹割れ対策	専門業者による作業
令和8年(2026)	立ち入り防止柵	住民参加による施工 道具: Wスコップ、カケヤ 材料: 杭(製品)
令和9年(2027)	立ち入り防止柵 マルチング	住民参加による施工 材料: チェーン マルチング材

#### 最後に

令和8年度のロープ柵設置、マルチングをもってこの計画も終了となるが、数年おきに土壌改良は継続し樹勢の維持に努めてもらいたい。また、ケーブリング、ベルトについても恒久的なものではないため、劣化が確認されたら取り替えが必要となることも留意ください。

2023年



2025年



ご清聴ありがとうございました